

一番ほしかったのは
石油ストーブだね。
暖も取れるし、
料理もできるから。

災害時は
飲み水も
トレイの水も必要。

「何かあったら避難所に
行けばいい」じゃなくて、
「自宅避難所」という
発想も大切。

東日本大震災発生時に役立ったたくさんの知恵や工夫。仙台市震災メモリアル・市民協働プロジェクト「伝える学校」(*)のプログラムの一環として始まった「街からの伝言板」では、学生や市民が参加し、2年をかけて仙台の中心市街地でヒアリングを行ってきました。組織の一員として働いた人、自分のお店を守った人、地域のために動いた人。あの時、さまざまな立場の人が街にはいました。

本展では、ヒアリングをとおして皆さんから預かった伝言をカルタにしてご紹介するとともに、鳥瞰図絵師である中田匠氏が手描きの線画で表現した仙台市街地の鳥瞰図を展示しながら、たくさんの機能が集まった都市における災害時の姿を振り返ります。

大震災から丸6年を迎えようとしている今、「大都市・仙台」が直面した当時の状況を改めて見つめ直す展覧会です。この機会にぜひご来場ください。

*
伝える
学校

「震災メモリアル・市民協働プロジェクト」として、仙台市と伝えるためのノウハウを持った市民活動団体等が協働し、震災の記憶と経験を市民一人ひとりが伝える視点をもって後世に継承していくための場づくりに取り組んでいるもの。「街からの伝言板」は平成26～27年度の「伝える学校」のプログラムの一つとして実施。
<http://311memorial.org/index.html>



鳥瞰図制作 | 中田 匠

岩手県盛岡市出身。日本に数人しかいない鳥瞰図絵師の一人。各地の鳥瞰図をコレクションする傍ら、「無いものは描いてしまえ」をモットーに地方都市の鳥瞰図を描き続けている。

カルタイラスト制作 | Kenichi Waga

宮城県仙台市出身。1996年から音楽のアルバム制作を行っており、チラシ等のイラストも手掛ける。
<http://kenichiwaga.com>

関連トークイベント 「インフラを繋ぎ直した人たち」

大震災の発災時、上下水道・ガス・電気・物流といった都市生活に欠かせないインフラが大きな被害を受けましたが、多くの人たちの尽力により、早期の復旧が実現しました。取材したインフラ関係者にご登壇いただき、当時の復旧状況を振り返っていただきながら、地震が繰り返してやってくる都市ならではの課題を共有します。

日時 2017年2月11日(土) 14-16時
会場 せんだい3.11メモリアル交流館
2階展示室

ゲスト 元・南蒲生浄化センター 所長 石川敬治さん
宮城県石油商業組合 専務理事 阿部廣之さん
仙台市ガス局製造供給部 導管管理課長 大友辰男さん
司会 植田今日子さん
(上智大学准教授／街からの伝言板プロジェクト主宰)



せんだい3.11メモリアル交流館

Sendai 3/11 Memorial Community Center

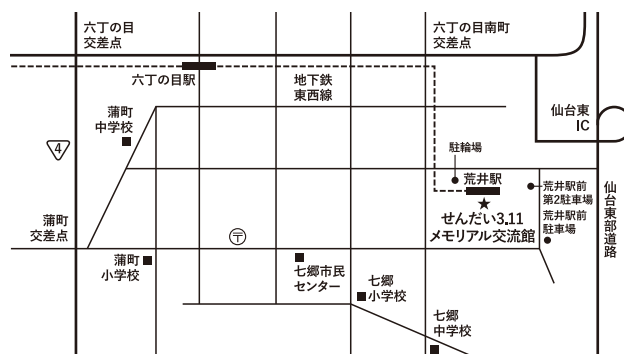
[運営:公益財団法人仙台市市民文化事業団(仙台市まちづくり政策局防災環境都市推進室より受託)]

〒984-0032 仙台市若林区荒井字沓形85-4 地下鉄東西線荒井駅内

電話 022-390-9022 メール office@sendai311-memorial.jp

ウェブサイト <http://sendai311-memorial.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/sendai311memorial/>



アクセス

〈仙台空港から〉
仙台空港アクセス線仙台行きで25分
仙台駅で地下鉄東西線に乗り換え
〈仙台駅から〉
地下鉄東西線荒井行きで13分

- 車でお越しの方は、荒井駅前・荒井駅前第2駐車場(有料)をご利用ください。
- バイク・自転車でお越しの方は、荒井駅駐輪場(有料)をご利用ください。

*この紙はリサイクルできます。